

## 平成31年度 東京都立富士高等学校附属中学校 学校経営報告

### 1 今年度の取組と自己評価

#### (1) 教育活動への取組と自己評価

「チーム富士」の自覚をもって、学校経営計画を確実に履行していく。また、分掌・学年・教科・経営企画室との連携を重視し、企画調整会議と教科主任会議を軸とした学校経営を推進する。

「理数アカデミー校」「英語教育推進校」としての教育活動を発展させた、特色ある教育活動である富士メソッドを策定し、質の高い授業への変革を行った。

各分掌は、年度初めに組織目標・数値目標を設定し、10月にはプロセス評価を行って、年度後半の取組を再設定した。その結果、組織として明確な数値目標をもつことができ、年度末には当初の目標をほぼ達成することができた。

教育庁指導部高等学校教育指導課進学対策班の指導助言を受けながら、国公立受験に対応できる目標値を学習指導に組み入れ、教職員全員で共有し、生徒指導に役立てた。教科主任会は学力向上の要の組織として数値目標の設定や進行管理を行った。

また、新大学入試や学習指導要領改訂に伴う思考力・表現力の育成のため、定期考査問題における初見問題及び記述問題の吟味と採点基準について、教科主任会議で検討を行った。

教科主任会議での決定事項は企画調整会議で随時報告し、周知徹底を図った。

#### (2) 重点目標への取組と自己評価

##### 学習指導

考える力を育成する「富士授業」に基づく授業第一主義を推進する。

- ① シラバスをベースに到達すべき目標から逆算した定期考査を実施し、成果を検証する。  
生徒に予習・復習を促し、達成感が得られる授業を展開する。放課後スタディや富士サポート等の講習を通して、生徒の学力向上を確実に支援する。また、放課後スタディや大学生による放課後理数質問教室を通して、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢や態度を育成する。

年3回の教科主任会議や年4回の定期考査、年2回の総合考査で学習の定着度を確認しながら、富士サポートを組織的に運営した。

英語・数学の習熟度別授業により、生徒一人一人に対応しながら、学力定着度の向上を図った。習熟度別授業の効果について、中学1年59%(-20pt)、中学2年71%(-5pt)、中学3年67%(-2pt)が有用感を感じている。また、学習指導について、中学1年80%(-12pt)、中学2年81%(-10pt)、中学3年86%(-6pt)、保護者83%(±0pt)が教員の指導が熱心であると認知している。

- ② 課題の複線化を図ることによって、朝学習や放課後学習等をより効果的に実践する。教科主任会を機能させ、データ分析に基づく学習戦略を徹底する。また、教員は各自の端末で模試分析ソフトを駆使したデータ分析を実施し、データに基づく指導を実践する。

年2回模試分析会を実施するほか、夏季休業中には教育機関による研修にのべ20名の教員が参加し、授業力の強化を図った。研修後には教科会議で成果を報告し、実践につなげた。また、課題の分量と内容の整理を行い、課題の複線化を実践した。

- ③ 理数アカデミーに関連する土曜講座などを積極的に企画して実物を実感できる機会を提供し、科学技術分野への理解を深めさせる。また、東京大学と連携し、放課後を活用した「体験型起業家育成ワークショップ」や「土曜実験教室」などを実施する。

探究未来学での探究活動において課題であった、①探究活動に相応しい課題の設定、②根拠となるデータ収集と分析、③仮説設定までの思考方法について改善を図るため、プロジェクトチームで年間授業計画とワークシートを作成した。これにより、生徒によるクリティカルシンキングを手法とした主体的思考力を組織的に育成することができた。

中学生科学コンテストに5チームが出場し、2チームが総合順位でBグループ(11位~30位)に入ることができた。1チームが実技部門で第5位であった。

都立中高一貫教育校日本語スピーチコンテストを本校で実施し、代表者を選出するために全校生徒による予選会を実施した。代表者2名が代表として参加し、1名が第3位を獲得した。2月には東京都公立中高一貫教育校第2回PDA中学生即興型英語ディベート大会を開催し、優勝と第4位を獲得した。

シリコンバレー・アメリカ研修旅行に向けたアメリカ講座を中1が年6回、中2が7回実施した。1年間のアメリカ講座での活動内容は、今後、成果集として編纂して生徒全員に配布し、本校の学習活動を向上させる指標とする。

## 生活指導

「育てるプロ(育師)」の自覚をもって、社会を生き抜く力をもったリーダーとして「責任感」、「思いやりの心」を身に付けた生徒を育成する。また、種々の部活動や学校行事を通して、互いに協働し、高め合う生徒を育成する。さらに、道德教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して心を耕す教育に取り組む。

- ① 学校行事・部活動において団体戦を意識させ、帰属意識・成功体験を身に付けさせる。始業式や終業式及び年11回の朝礼においては、校歌を全員で大きな声で斉唱した。道德教育推進教師を中心に、全教育活動を通して規範意識の向上や心を耕す教育に取り組む。

体育祭・文化祭・合唱祭の3大行事において、高校生や上級生の取り組む姿を模範として主体的に取り組んだ結果、生徒の行事・部活動への満足度は生徒80%(-8pt)、保護者78%(-2pt)と高い評価を得た。

道德授業地区公開講座では、20名の保護者と意見交換ができ、本校の道德教育の取組を理解していただくよい機会となった。

- ② 「給食指導」、「特別支援教育の視点をもった個別指導」、「学校いじめ防止基本方針」等を通じて、いじめの早期発見・防止に向けた指導の充実を図る。説明責任を果たし、丁寧な保護者対応により、生徒指導をさらに深めていく。

管理職、学年担任、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭で組織する教育相談委員会を年7回実施し、スクールカウンセラー相談、保健室利用状況、生徒状況を組織的に把握し、生徒対応に努めた。体罰、いじめアンケートを年3回実施し、生徒の声に傾聴する機会を作り、生徒の支援体制の構築に努めた。

スクールカウンセラーによる青年心理校内研修会を実施し、発達障害の生徒に対する支援の方法等について知識を深めた。いじめには早期発見、早期対応に努め、中1ショックに対応した。いじめへの対応について、中学1年生の70%(-4pt)、保護者の53%(-3pt)が好評価をしている。

教育学ゼミではスクールカーストについて探究活動を行い、生徒たちがお互い意見交換をしながらより良い学校づくりを主体的に目指す活動を行った。中学校2年生は全国いじめ防止サミットに東京都代表として参加し、いじめをなくすためにどのような活動が有効かについて議論し、サミットでの活動内容を校内の生徒に広めた。

- ③ セーフティ教室や防災教育を計画的に実施し、生徒の安全意識・防犯意識を高めさせる。また、「SNS校内ルール」を策定し、SNSに関わるトラブルの未然防止に努める。

年11回の避難訓練、春・秋の交通安全運動に合わせた交通安全教室、夏季休業前の薬物乱用防止教室を実施したほか、朝礼や学年集会、全校集会において学校安全計画に基づいた安全指導を計画的に実施した。

中野警察と連携し、スケアード・ストレイト式自転車安全教室を実施し、自転車のルール違反がなぜ危険なのかを生徒に視覚的に理解させることができた。

道徳の時間を活用してクラスごとにSNS校内ルールについて話し合いを行い、共通理解をもたせた。さらに、LINEの担当者から直接話を伺うことで、より深い学びにつなげることができた。また、オリンピックを招聘し、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げることの大切さを感じることができた。

生活指導に対して、生徒83%(-9pt)、保護者83%(+5pt)が好評価をしている。

#### 特別活動・部活動

「富士」の誇りが醸成できるよう、目標に向かって活動する生徒を積極的に支援する。

- ① 部活動において「一部活一地域貢献」を目標に地域社会への貢献を果たす。また、職場体験等で地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れる。環境問題など大きなテーマを保護者や地域と連携して学ぶ機会も提供する。

中学2年で職場体験を実施し、協力機関から生徒の活動について高い評価を受けた。また、弥生町地域運動会に部活動で参加し、地域貢献を果たした。都立中野特別支援学校と生徒会・部活動が交流活動を実施した。オリンピック・パラリンピック教育事業として元オリンピックや現役アスリートによる交流を複数回実施した。

## 進路指導

「進学のプロ」の誇りをもって、生徒の高い進路希望を実現する指導を組織的に実施する。

- ① 分掌、学年、教科が一体となり、共通の戦略をもって生徒を指導する。進路指導計画に基づき、意図的・計画的な学習の積み重ねを重視した方策を展開する。
- ② 生徒の進路について丁寧かつ意図的・計画的なガイダンスを実施し、キャリア計画に基づいて生徒の学ぶ意欲を高める指導を展開する。

高大接続改革に合わせ、教科主任会議において、定期考査への初見問題の導入、記述問題の精選を推進した。

学力推移調査の経年比較を行い、中学2年から中学3年への推移に特に注視するとともに、指導に力点を置くことを徹底した。

東大模試を中学3年生の25人が受験し。模試の結果分析により、生徒の学力を多面的に把握し、早期の進学指導体制を構築することができた。夏季休業中には英語短期集中講座を3日間実施した。進学指導に対する満足度は生徒75%、保護者62%であった。

- ③ 進路学力部が進路情報及びデータを一元管理し、全教職員が進路情報を共有する。生徒個々の成績推移や志望状況、指導の経緯などを網羅した「個人カルテ」を作成する。一人一人の定点観測を行い、計画的な成果検証を交えて、生徒の学力向上に向けた支援を行う。
- ④ 放課後スタディ・富士サポートシステムなどで一人一人の生徒の学力向上を図る。また、各種検定講座等を朝や放課後及び長期休業日に実施し、生徒を支援する。
- ⑤ 家庭学習の時間を確保させ、自習室の活用を積極的に呼びかけ、団体戦（学び合い、教え合い）を意識させて、生徒の文武両道を支援する。
- ⑥ 団体戦を支援するため、学年集会や面談を通して生徒に寄り添った進路指導を展開する。

## 募集・広報活動

総務部主導の下、学校公開、学校説明会、体験授業等を組織的・計画的に実施し、「チーム富士」の教育実践を、児童・保護者や塾等に広く紹介し、本校が期待する生徒に入学してもらえるようにする。

- ① ホームページで学校情報を積極的に発信し、更新頻度を高めて本校の特色ある教育活動の様子を広く都民に公開する。

中学と高校が統合されたホームページにより、中学・高校の学校生活や教育活動の様子をわかりやすく広く都民に公開した。学校案内パンフレットの刷新や学校説明会の内容充実によって、理数アカデミー指定校としての取組を積極的に発信した。

土曜実験教室への参加を小学校5・6年生に呼びかけ、大変好評を得た。文化祭では東大C A S Tによるステージを実施し、多くの参加者を集めた。

- ② 全教職員の連携・協力の下、授業公開、学校説明会、適性検査問題解説授業等を実施し、「受検したい学校」にする。

適性検査実施分析を行い、本校の期待する生徒像との合致を目指した広報活動を展開した。学校見学会、学校説明会には 2,402 名の小学生・保護者が参加し、応募倍率は 5.23 倍であった。

## 2. 実績：

- (1) 模試分析会を年 2 回実施
- (2) 学力推移調査を中 1・中 2 が年 3 回、中 3 が年 2 回実施  
英語・数学・国語の 3 科目におけるランク別人数は以下のとおり。( ) は前年度
- |       |               |               |               |
|-------|---------------|---------------|---------------|
| C ランク | 中 1 : 2 (2)   | 中 2 : 2 (0)   | 中 3 : 4 (5)   |
| S ランク | 中 1 : 16 (16) | 中 2 : 16 (25) | 中 3 : 22 (21) |
- (3) 中 3 の東大模試 (1 月実施) 受験者数 25 名 (53 名)
- (4) GTEC スコア 485 (CEFR A2) 以上の生徒の割合 中 3 : 87% (38%) 中 2 : 71% (17%)
- (5) 英検 I B A、準 2 級以上の生徒の割合 中 3 : 87.3% 中 3 : 71.3%
- (6) 部活動加入率 94% (前年度 : 85%)
- (7) 学校評価アンケート「私は毎日予習・復習を行い、熱心に授業や自宅学習に取り組んでいる」に対する生徒の肯定的な評価 52% (前年度 : 63%)
- (8) 学校評価アンケート「先生は学習指導を熱心に行っている」に対する生徒の肯定的な評価 83%
- (9) 学校評価アンケート「先生は部活動や学校行事など特別指導の指導を熱心に行っている」に対する生徒の肯定的な評価 80%
- (10) 生徒一人あたりの年間図書貸出数 30 冊 (前年度 : 32 冊)
- (10) 年間皆勤の生徒の割合 中 1 : 26% 中 2 : 40% 中 3 : 26%  
(前年度 : 中 1 … 25%、中 2 … 19%、中 3 … 23%)
- (11) 土曜日授業公開 (土曜日学校説明会も含む) の合計来校者数 4,969 名 (前年度 : 5,070 名)
- (12) 適性検査応募倍率 5.23 倍
- (13) 理数アカデミーの活動における、外部人材の活用  
理数質問教室 18 回、土曜実験教室 8 回、理数ワークショップ 10 回
- (14) 土曜講座参加者数 のべ 767 名
- (15) 教育相談員会年間 7 回実施、思春期心理に関する研修会の実施 (10 月)、体罰事故 0 件

## 3. 次年度以降の課題と対応策

### 学習指導

学力推移調査のランク別人数を目標値に近づける。

- 授業力向上に向けた研修の予算を確保して授業力向上を図る。相互授業参観を導入し、組織的に授業力向上を図る。

- 教科会で模擬試験、定期考査、総合考査の目標設定値を明確にし、実施後には検証を行って授業改善につなげる。  
理数アカデミー校として組織的に活動の充実を図る。
- 探究活動の初期段階の活動計画、ワークシートの改善・定着を図ながら、探究未来学の授業計画を構築する。本校の探究活動の発展を目指し、教員研修を実施する。
- シリコンバレー・アメリカ研修旅行の実施について準備を怠らず、実施後は還元報告を実施し、次年度の改善に結びつける。

#### 生活指導

基本的な生活習慣の確立を図る。

- 挨拶の励行を学校全体で意識的に実施する。
- スクールカウンセラーと連携して教育相談委員会を充実させ、個々の生徒指導を細やかに実施する。
- 思春期心理を校内研修会の主題として実施し、思春期の自立について教職員全員が共通理解をもって教育活動に当たる。

#### 特別活動・部活動

- 地域貢献活動を継続し、地域に受け入れられる学校を目指す。
- 教員の防災組織を明確にし、それぞれの役割を意識した防災訓練の実施、副読本を活用した防災教育を組織的に実施する。
- オリンピック・パラリンピック教育を英語教育・生活指導と合わせて実施し、挨拶やおもてなしの意識の育成、国際理解・連帯感・帰属意識の滋養に努める。

#### 進路指導

高大接続改革・新学習指導要領に対応する進学指導を確立する。

- 高大接続改革・新学習指導要領について情報を的確に収集すると共に、今後求められる学力について校内研修を実施し、教育活動に反映させる。
- 生徒が高い目標を持てるよう、進路指導を充実させ、団体戦で臨む体制を整える。

#### 募集・広報活動

理数アカデミー校、中高一貫教育校として教育活動を都民に広く広報し、本校の期待する生徒像に合致する生徒の募集に努める。

- ホームページや学校案内等の充実を図り、継続的に広く都民に教育活動を理解できるようにするとともに、中学募集枠の拡大に向けて、より一層の募集・広報活動に努める。
- 適性検査Ⅲの作成について研鑽し、本校の求める資質を適正に測ることのできる検査を目指す。